

2011

教文ニュース

2011年
教文3号
文責 森
2011/9

「夏季教研」報告



8月10(水)・11(木)、「くじゃく荘」(川棚)で開催しました。

記念講演は、日高教の佐古田教文部長が、高校教育政策提言冊子をテキストに、これからの高校教育を考えるとというテーマで講演を行いました。

また、義務制の授業の様子を知ろうということで、冬の教研で好評だった小学校の算数の模擬授業を、「教職員の

会」の一倉さんが行いました。

参加者は昨年度とほぼ同じ 50 人でした。成立した分科会・(参加人数・レポート数)は次のとおりです。

国語(5・1)、外国語(7・3)、社会(9・3)、数学(6・4)、理科(12・8)、保健体育(4・2)、工業(5・0)。

今回は、11月26・27日に長崎市で開催される「教組・共闘の学習交流集会」の関係で、領域別と教科別を入れ替えたため、教科レポート準備の都合がつかず、提出数がやや少なかったようです。しかし、顔を合わせ、教育実践を語り合い、また夕食交流会で「つながり」を確認し合いました。これらのことが長崎高教組の教研集会の醍醐味であることをあらためて実感できました。



「教育のつどい」報告



8月19(金)～21(日)の3日間、千葉県で開催された「教育つどい2011 in 千葉」の報告をします。大震災・原発人災事故を受け「今こそ、子どもたちのいのちを慈しみ人間として大切にする学校・地域」などを集会テーマとした今次「つどい」には、全国から1700人が参加しました。長崎からは8人が参加しました。(本部3、レポーター・一般参加5)。参加者と「分科会」は次のとおりです。

田島さん(波佐見分会)「登校拒否・不登校」、今泉さん(鳴滝夜)「発達・学力・評価」、鈴木さん(鳴滝通)「外国語」。また今回は自称?青年教職員や未参加者に一般参加をよびかけ、学習・交流活動をすすめる取り組みを提起し、井野口さん(佐商分会)、勝村さん(大村高分会)が参加しました。開会全体集会での記念講演は、中西新太郎さん(横浜市立大学)による「いま、子どもたちとともに社会をつくるー歴史の分岐点に立ってー」で、東日本大震災後の今、「生きる場所を取り戻し築く」ために教育のあり方を提起しました。「教育つどい」は、教育の全国情勢や実

践をじっくり学べる最大の機会であり、また記念講演もさまざまな観点から子どもたちや私たちの教育活動を考察することができるものです。

登校拒否・不登校分科会(田島章さん:波佐見)



外国語分科会(鈴木奈尾子さん:鳴通)

発達・学力・評価分科会(今泉宏さん:鳴滝夜)



まだ参加されていない方へ。

ぜひ来年度は参加をお待ちしています。



しっかり学んだあとは、夕食交流。
各支部や組合員相互の和気あいあい
とした親睦か交わされます。

